

普及現地情報



発信年月日:令和7年(2025 年)7月16日

所 属 名:甲賀農業農村振興事務所

番 号:C25005

発 信 者 名:池原、下川、曽根

種子大豆の安定生産に向けて研修会を開催！

6月10日、甲賀管内の種子大豆生産者を対象に、安定生産に向けた防除研修会を開催しました。当日は、種子大豆生産者のほか、JAこうか、農業技術振興センター、滋賀県種子センターから参加があり、当課からは、近年の気象条件の変化に対応した防除体系の提案を行いました。

管内では、農事組合法人2法人が種子大豆「フクユタカ」の生産に取り組まれています。しかし近年、夏季の高温で病害虫の発生時期が早く、発生量も多くなっていることから、収量・品質の低下を招いています。そこで、高温による病害虫の発生活動の変化に対応するため、主要な病害虫である「紫斑病」「ハスモンヨトウ」「吸実性カメムシ類」の防除に関する研修会を開催しました。

当課からは、昨年度の採種ほ場での減収や品質低下の原因として、ハスモンヨトウの発生が早いことに加え、平年より遅い時期まで食害したことや、ミナミアオカメムシが多発し、花期以降の吸汁害によって子実への被害や青立ち症状が発生したこと、紫斑病が多発しやすい気象となったことなどを説明しました。また、これらの病害虫の状況を踏まえた今年度の対策として、殺虫・殺菌剤の変更や、殺菌剤の追加防除(2回防除)の実施、さらに吸実性カメムシ・ハスモンヨトウの発生状況に応じた適切なタイミングでの追加防除を提案しました。

その後、関係機関を交えて、種子大豆生産者と種子生産物審査の項目である「紫斑病」が多発した原因や、今年度の対策について、重点的に検討を行いました。

今後も当課では、関係機関と連携し、種子大豆の安定生産に向けて、支援していきます。



種子大豆研修会の様子